

ポリテックビジョン 99を開催して

雇用促進事業団 職業能力開発指導部 大学校指導課

ポリテックビジョン 99は、「ものづくり」新たな展開と人材育成」をメインテーマとして、平成11年2月24日（水）～26日（金）の3日間、大阪府摂津市の関西職業能力開発促進センター（ポリテクセンター関西）を主会場に開催しました。

これは、全国の職業能力開発短期大学校（ポリテクカレッジ）等で行われている多様な職業能力開発に関する研究開発等の成果を広く一般にアピールすることによって、職業能力開発の可能性と将来像を追求するとともに、事業主団体等が必要としている高付加価値化・新分野展開等に対応できる研究開発力、また、その人材育成のための教育訓練方法等のノウハウを、雇用促進事業団を通じて習得できることを周知することが目的です。

内容は、研究成果の展示（期間中の3日間）、記念講演（第1日目）、研究開発発表（第1～2日目）、カンコロジーロボット競技会（第3日目）で構成しました。また、新たな展開として、今回は、今年度からスタートした応用課程における教育訓練内容の紹介や雇用環境自己診断システム（愛称：Binus）のデモンストレーション等も行われました。

年1回開催される「ポリテックビジョン」も今回で3回目となり、毎年開催するたびに充実した内容となっており、開催場所も首都圏以外における初めての試みとして新たな展開の第一歩となりました。

1. 研究成果の展示

開催期間中を通して行われた「研究成果の展示」



研究成果の展示

は、事業団の全ポリテクカレッジから、その特徴のある卒業製作研究の成果について約150点を一挙に公開したもので、そのうち特に「人にやさしいものづくり」として環境・福祉・安全をテーマとしたコーナーを設けて、今後、環境・福祉・安全と「ものづくり」との関連性を図ることで何らかの方向性を見いだすこととしました。

その一例として、駆動輪を1つとして携帯性に優れた「移動介護機器（一輪駆動車いすの製作）」、すべての工程において地球にやさしいエコマテリアル材料と太陽光発電と風力発電のエコエネルギー発電方式を取り入れた「ウッドセラミックセンサーを用いた床暖房（エコエネルギーとエコマテリアルの融合化）」、在宅者にコードなどの不快感を与えるものを接続することなく、家に置いておくだけで健康状態を確認することができるシステム開発を目的とした「在宅者の安否を確認するシステムの研究」等を展示し、いずれの成果物においても、社会におい

て実用性が高いと多くの注目を集めました。

2. 記念講演

第1日目に行われた「記念講演」は、小型モータの分野において世界的な企業に育て、さらには新分野へも積極的に進出し、現在全国的に注目を集めている日本電産株式会社の永守重信代表取締役社長による『情熱，熱意，執念の経営』をテーマとする講演であり、永守氏の今日までの経験談を交えた巧みな話術によって、ご自身の人材育成観および会社経営の理念について非常にわかりやすく、かつ説得力のある講演であったと思われます。

特に企業人として常に仕事に対して「情熱，熱意，執念を持って行動する」「必ずできる」という“意識”を高く持つことがきわめて重要であることを説明されるのに、会社設立当初からのご自身の体験をもとにした話には、講演会場となった摂津市民文化ホールに多数集まった聴衆を魅了したものと思われます。

3. 研究開発発表

第1日目から第2日目にかけて行われた「卒業製作・研究発表」は、ポリテクカレッジの学生による2年間の訓練の成果で「ものづくり」に立脚したテーマについて、各ポリテクカレッジから1テーマずつ発表するものです。そのテーマについては、全国26ヵ所設置されているポリテクカレッジの豊富なノウハウと地域ニーズを反映した独創的なものでした。

各発表からは、日頃の製作・研究に情熱を傾けて取り組んでいる姿やその成果のレベルの高さ、かつ来場者を前にした緊張感をポジティブな方向に考えることができる現在の若者気質を感じとることができ、発表者のみならず、全国のポリテクカレッジの学生の意気込みに対して来場者から高い評価を得たものと思われます。

また、同時に行われた「職業能力開発事業研究開発成果の発表」は、ポリテクカレッジにおいて実施されている事業主団体等に対して行われる技術的相談援助を目的とした研究開発の成果と、ポリテクセンターにおいて実施されるオーダーメイド型訓練等の事業主団体方式等による事業展開の好事例につい



卒業製作・研究発表

て発表されるものであり、その研究開発レベルの高さと実用性について、特に事業主団体、企業などの方々から高い評価を得たものと思われます。

4. カンコロジーロボット競技会

第3日目に行われたカンコロジーロボット競技会は、学生が卒業製作として競技規則に沿って製作した自立型ロボットが、人間が直接手を下さず制御され、「空き缶処理」を1対1で競い合う競技会で、ポリテックビジョンの開催当初から続いているものであり、今回で第3回目の開催となりました。その技術レベルおよび独創的なアイディアは、年を重ねるごとに向上してきたように思われ、技術および学生の創造力の向上に伴い競技としての醍醐味も増しており、観客も大いに楽しめるものとなりました。

また、今年度からスタートした応用課程の教育訓練システムを応用課程担当指導員が中心となって紹介をするとともに、その特徴である応用課程担当指導員自らが製作した実習課題の展示を行い、来場者に新たに創設された応用課程の教育訓練について理解を得たものと思われます。

ポリテックビジョン'99の参加者は3000名を超え、多くの方々に「“ものづくり”新たな展開と人材育成」の必要性とその可能性について理解していただいたと思っています。

今年度においてもポリテックビジョン2000（仮称）を2月に開催することを予定しており、昨年度を上回る参加者を期待して、開催内容等の検討を含めた準備を進めているところです。ぜひ今後の広報等をご覧いただき、参加に向けた準備をお願いいたします。